

事務局（堂前芳昭） 幕別中学校の尚和議員、議長席にご着席願います。  
議長（尚和育実） これより議長をつとめます。幕別中学校の尚和育実です。よろしくお願ひします。

[一般質問再開]

議長（尚和育実） 会議を再開し、引き続き一般質問を行います。

次に駒畠小学校、長崎柊史議員の発言を許します。

19番、長崎柊史議員。

19番（長崎柊史）

駒畠小学校では、次年度、新入学者がゼロの予定です。また、駒畠保育所もこのままでは閉所するという噂もあります。これは駒畠だけのことではないと思います。幕別町では、子どもが減少しないようにどのような対策を考えているのかについてお伺ひします。

議長（尚和育実） 岡田町長。

町長（岡田和夫）

長崎柊史議員のご質問にお答えいたします。

子どもが減少しない対策についてであります。

十勝管内をはじめ、多くの市町村が人口の減少に悩んでいる中、幕別町はこれまで人口が増加する傾向にありました。

しかしながらその内訳を見ますと、平成12年度から平成17年度までの5年間で、65歳以上のいわゆる高齢者の人口が976人増えたのに対して、15歳未満の人口は170人減少をしている。子どもの数が減っていく少子化と、高齢者の数が増えていく高齢化の現象が進んでいる状況にあります。

このため、町外の若い人たちが幕別町に移り住みたくするような、子どもを産み育てやすい環境を整備するため、これまで道路や公園、下水道などの生活の基盤となる環境整備を行い、住宅地造成の推進による人口増加対策を進めております。

また、本年度からは、新たな子育て支援対策として、2歳未満児を子育てしている家庭に対して、紙おむつなどを入れるごみ袋購入費用の助成を行うほか、保育所に通っている児童の傷害保険料を全額助成する。1歳半と3歳児対象のフッ素塗布歯科検診を無料実施するなど、子育て家庭への経済的な援助を行っております。

更に、農村地域においては、平成15年に農業者のための研修施設として幕別町農業担い手支援センターを建設し、農業に興味のある人や農業をもっと学びたい人への研修事業などを行い、町の大事な産業であります農業の後継者確保と育成を図るとともに、都会などから移り住んで農業を新たに始めたい人の受け入れ環境の整備にも努めているところであります。こうした事業を取り入れることで、多くの若い人が農業に従事し、結婚していくことが広い意味での子どもたちが減少しないことにつながって

いくものであるというふうに思います。

また、こうした問題は町村のみならず、国においても子どもの数が減少していくことを深刻な社会的問題としてとらえ、少子化担当の大臣を置くなどをして各種対応に乗り出しております。

本年度からは、子どもが生まれた家庭に対して入院等の費用を助成する出産手当を30万円から35万円に増額した。子育て中の家庭に対して子ども一人につき毎月5千円を支給する児童手当の対象年齢を、小学校3年生までから小学校6年生終了まで引き上げるなど、様々な支援策を打ち出しています。

少子化対策は、平成19年度においても引き続き重要な課題として位置付けをしており、今後とも役場だけでなく、町だけでなく、地域や企業、あるいは学校など社会全体がお互いに協力し、子育てがしやすく、快適で住みよい環境づくりに努めていくことが大事なことなんでしょうというふうに思っております。

以上で、長崎柘史議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

議長（尚和育実） 以上で、長崎柘史議員の質問を終わります。

次に糠内中学校、長崎緩奈議員の発言を許します。

20番、長崎 緩奈議員。

20番（長崎緩奈）

糠内・明倫・駒畠の地域から幕別本町へのバスの便が少なく不自由です。特に駒畠から幕別町内への便は少ないです。親に連れて行ってもらえばよいのですが、そういうわけには行かず、中学生ですから簡単な買い物は自分で行きたいと思いますが、行けません。バスはもっと便利にならないでしょうか。

議長（尚和育実） 岡田 町長。

町長（岡田和夫）

長崎緩奈議員のご質問にお答えいたします。

駒畠から幕別市街までのバスの増便についてであります。

この区間のバスにつきましては、古くは、昭和の初期から民間のバス事業者が運行をしておりましたが、利用者の減少に伴いまして、民間バス事業者が撤退し、平成3年度から、地域住民の交通手段の確保のため町営バスの運行を開始し、現在に至っております。

ご承知のこととは思いますが、月、水、木、土曜日は1日2往復、火曜日と金曜日は1日3往復で運行をしておりますが、いずれも通学、通院などに合わせたバスダイヤでありますし、また、日曜日は運行をしておりますので、ご質問にもありましたように、自家用車を所有していない方、あるいは運転できない方においては、買い物などの利用に不便な状況にあるんだろうというふうに思っております。

バスの便をもっと便利にということではありますが、現在バスの運行には年間600万の経費が要しているわけですが、反面、運賃として入ってくる収入は136千円

でありまして、年間600万以上の赤字となっているのが現状であります。

さらにまた、利用者数も年々減少しておりまして、平成9年には年間7,000の方が利用されていたんですが、昨年は約1,600人と、9年前と比べますと4分の1以下の利用者となっている状況にもあります。

こうした状況の中で、駒畠線のバスの便を増やすことにつきましては、大変難しいものがあるんだろうというふうに考えておりますが、公共交通の果たす役割、こういったことの観点から町内の公共交通全体のあり方を検討する中で、これからも駒畠線の沿線の住民の皆さんと十分交通手段のあり方、あるいは利便性を高める手法などについて協議をさせていただき、検討してまいりたいというふうに考えております。

以上で、長崎緩奈議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

議長（尚和育実） 以上で、長崎緩奈議員の質問を終わります。

次に糠内中学校、吉田恭平議員の発言を許します。

21番、吉田恭平議員。

21番（吉田恭平）

美川地区と明倫地区から通学している生徒たちからのお願いです。みんな部活終了後、自転車で帰宅しますが、日暮れが早まると、すごく暗くなります。道の街灯をもっと多くしてほしいといつも思っています。特に学校から明倫へ向かう時の急な上り坂は暗くて危険です。街灯をもっと多くできないでしょうか。

議長（尚和育実） 岡田 町長。

町長（岡田和夫）

吉田恭平議員のご質問にお答えいたします。

明倫地区及び美川地区の防犯灯、いわゆる街灯の増設についてであります。

先の土肥議員のご質問でもお答えいたしました。町では、地域からご要望をお聞きして、毎年90灯くらいずつ新しい防犯灯の設置と古くなった防犯灯の取替えを行っております。

本年実施いたしました防犯灯整備の中で、糠内中学校から明倫へ向かう町道糠内古舞線の明倫側、調度坂を上りきったあたりだと思えますけれども、ここに防犯灯を1基設置させていただきました。

まだまだ吉田議員が言われるように暗いところが多いんだろうと思いますが、今後とも地域の方々とご相談しながら、順次、整備を進めてまいりたいというふうに考えております。また今ご指摘の部分があったんですけれども、それらについては後ほど吉田議員からどの場所が暗いというようなことの実態についてお話をお聞かせをいただき、担当の者が現地を確認させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上で、吉田恭平議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

議長（尚和育実） 以上で、吉田恭平議員の質問を終わります。

次に札内中学校、高石竜一議員の発言を許します。

22番、高石竜一議員。

22番（高石竜一）

現在、町内の札内地区は、国道38号線を中心に帯広市のベットタウンとしても栄えています。しかし、その一方で38号線はずれると少々賑わいを失った部分も見られます。その一つが札内駅前商店街です。帯広に近い38号線では、店舗が立ち並び、普段の消費者の出入りが多く活気があります。この38号線の活性化に習い、駅前商店街の活性化を促進することで、地域住民のニーズに答えられるようなまちづくりを進め、商店街からも幕別町の特産物を前面にアピールできるようにします。そうすることでまちの更なる活性化につながるとは思います。いかがでしょうか。

議長（尚和育実） 岡田 町長。

町長（岡田和夫）

高石竜一議員のご質問にお答えいたします。

札内駅前商店街の活性化の推進についてのご質問ですが、今は車社会となり、鉄道を利用する人たちは学生か車を持たないお年寄りが大半を占めているのが現状かと思っております。

以前は通勤帰りに札内駅前商店街で買い物をしてきた人もたくさんいたわけですが、隣の帯広市に、デパートやスーパーなどの大型店が多数できたことや、お話ありましたように札内の国道38号線沿いにも広い駐車場がある大型スーパー等が出店したことにより、駅前商店街では、買い物をする人や往来する人も大変少なくなっている状況であります。

商店の人達は、商品の品質や品揃え、サービスなどに努力をされておりますが、消費者のニーズも多様化し、多くの方は、品物や種類がたくさん揃えてある大型店で買い物をしているというのが現状でなかろうかというふうに思います。

このような状況の下、札内地区の商店街で、札内中央商店街振興会というのを設立し、駅前への商店集積を進めてきたという経緯があります。社会情勢等の変化により残念ながら具体策を見つけることができなく、現在に至っております。商工会や商工会青年部においては、夏祭りなどのイベントを実施するなど活性化についての活動をしておりますけれども、町としても、札内駅自由通路の設置等を行うなど取り組んでおります。

今後におきましても、商工会と協議をさせていただきながら、札内駅前商店街の活性化に向けての取り組みを進めてまいりたいというふうに考えています。

以上で、高石竜一議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

議長（尚和育実） 以上で、高石竜一議員の質問を終わります。

次に札内中学校、千葉直哉議員の発言を許します。

23番、千葉直哉議員。

23番（千葉直哉）

僕は、最近になり、幕別町内に老人施設が増えたような気がしました。少子高齢化によりお年寄りの方々が増えたためだと思っています

一方で、小中学校では、老人施設へのボランティア活動をする機会が減っており、最近はお年寄りと接する時間が少なくなっていると思います。そこで、幕別発祥のスポーツパークゴルフでお年寄りから小学生まで、世代を問わない交流の場を設けてみてはどうでしょうか。

例えば、交流の場というのは、先日行われた幕別町産業祭りの会場の一角で、パークゴルフができる場所をつくり、年齢に関係なくみんなが楽しめる場所を提供してみてもどうでしょうか。

また、小中学生などを対象としたパークゴルフの教室を回数を増やし、年に1回、お年寄りから子どもまでが混ざり合って町主催のパークゴルフ大会を開催してみてもと思いますが、いかがでしょうか。

議長（尚和育実） 岡田 町長。

町長（岡田和夫）

千葉直哉議員のご質問にお答えいたします。

お年寄りと子どものふれあいの場についてであります。

ご質問にもありますように、我が国は本格的な高齢社会に入り、本町におきましても、65歳以上の高齢者人口は、本年10月現在で6,172人となりました。総人口に占める割合、いわゆる高齢化率は、22.47%となりました。平成7年の15.94%との比較でも大幅に伸びてきており、急速に高齢化が進んでいる状況にあります。

また、核家族化などにより、日常生活の中でお年寄りと子どもがふれあう機会が減少しておりますことから、異なる世代での交流の機会の創設が求められているところであります。

こうした中で、パークゴルフを通して、世代を問わない交流の場を設けてはとのご提言であります。パークゴルフにつきましては、ご承知かと思えますけれども、昭和58年に幕別町で考案され、現在では、国内はもとより、海外まで普及の和が広がり、愛好者は100万人いるんじゃないかというふうに言われています。

ご承知のように、パークゴルフは、お年寄りから子どもまでが同じ条件で遊べる3世代交流のスポーツということを原点としております。

また、お年寄りにとっては、子どもたちとのふれあいは、生きがいや楽しみの一つでありますので、ご質問にもありましたように、産業まつり会場での催し、パークゴルフ教室や大会の開催などにつきまして、関係者の皆さんや教育委員会ともご相談をさせていただき、お年寄りと子どもの交流の場が、少しでも増えるよう努力をしてみたいと考えております。

なお、例年開催をしておりますパークゴルフの国際大会を始め、様々なパークゴル

フ大会には、小学生や中学生の部も設けてありますので、一つ千葉議員も友達を誘い合って是非参加していただければというふうにも思います。

以上で、千葉直哉議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

議長（尚和育実） 以上で、千葉直哉議員の質問を終わります。

次に札内東中学校、土岐優理子議員の発言を許します。

24番、土岐優理子議員。

24番（土岐優理子）

私はこの前、札内図書館に行ったとき、困ったことがありました。友達と自転車に乗って行ったのですが、既にそこには自転車があふれており、止める場所がありませんでした。結局横の芝生に止めたのですが、札内図書館には自転車置き場が足りないと思います。札内図書館の隣には、百年記念ホールもあって行事などがたくさんあり、利用者も多いのです。それなのに、あの自転車置き場の数では、せっかくの図書館を利用できないという人もいるのではないのでしょうか。そんな事を起こさせないためにも、札内図書館の自転車置き場を増やすべきと思いますが、いかがでしょうか。

議長（尚和育実） 高橋教育長。

教育長（高橋平明）

土岐優理子議員のご質問にお答えいたします。

百年記念ホールの自転車置き場についてのご質問であります。

置ける自転車の数は、南側に48台、西側、これは通路とパークゴルフ場の間にあるのですが、こちらに約24台であります。

この自転車置き場は、図書館の札内分館を含め、百年記念ホールを利用する皆さんの共有の駐輪場となっていますので、土曜、あるいは日曜日に大きな行事が重なったときに、南側駐輪場に置かれた自転車が道路にはみ出すことがあります。

人の心理として、できるだけ入り口に近い場所に止めたくなるのでしょうか、南側の駐輪場には、自転車があふれているときも、西側はガラガラということがよく見受けられます。

また、大きな催し物がない、ふだんの利用については、平均で10台から20台くらいという実態があります。

自転車置き場を広げることは今のところ考えていませんが、南側がいっぱいときは西側を使ってくださいと、協力を呼びかける表示をするなど、南側だけが混み合うことのないような工夫をさせていただきたいというふうに思っております。

また、子ども会まつりのように、いっぺんにたくさんの人が集まり、自転車を置く場所が足りなくなるようなときには、臨時の駐輪スペースを設けて、多くの人のじゃまになったり、見苦しくならないように十分に気をつけたいというふうに思っております。

以上で、土岐優理子議員へのご質問に対する答弁とさせていただきます。

議長（尚和育実） 以上で、土岐 優理子議員の質問を終わります。

議長交代のため、ここで暫時休憩します。

これをもちまして、私の議長の任は終わりました。皆様のご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。